

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 見附市立見附特別支援学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒954-0034

新潟県見附市月見台1丁目10番74号

E-mail mitoku@mitsuke-ngt.ed.jp

Website http://www.mitsuke-ngt.ed.jp/~mitoku/

幼児児童生徒数 男子 28 名 女子 22 名 合計 50 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は「地域で豊かに自分らしく生きる」を学校教育目標としている。ESD を「共生社会の実現」と捉え、ESD の実践を通して「他者との交流による関わることの楽しさの学び」「社会性の伸長」を目指した。

具体的には、①集会活動での異年齢交流、②近隣各校との交流活動、③地域の産業現場等における実習、④児童生徒の社会的自立を支えるためのネットワーク作りを主に行った。

① 集会活動での異年齢交流について

全校で行われる集会活動では、小学部から高等部まで異年齢の児童生徒が一緒に活動している。高等部生徒が全体的なリーダーとなり集会を運営していく。小学部児童は、高等部生徒を理想的なモデルとしながら、積極的に活動している。また、中学部、高等部の生徒は、小学部児童の手助けをしたり頼りにされたりすることで、自己有用感が向上している。

② 近隣各校との交流活動

当校は見附市立名木野小学校と廊下でつながっており、小学部は昼休みに日常的な交流を行っている。また、運動会や避難訓練、草なぎ祭等の行事に参加し交流している。児童が居住する校区の小学校で行う個人の交流活動である居住地

校交流も盛んに行われた。中学部は、見附市立南中学校と長岡市立山本中学校と交流活動を行った。南中学校とはプランターの木枠を作ったり花の苗を植えたりする活動を通して交流した。高等部は、新潟県立月ヶ岡特別支援学校と交流を行った。一緒にクリスマス飾りを制作したり歌を披露したりして交流を深めた。

③ 地域の産業現場等における実習

中学部3年生と高等部の生徒は、卒業後の進路を見据え、職場実習を行った。中学部3年生は2日間、高等部生徒は1～3週間の実習を行い、地域の実際の職場で「働く」学習に取り組んだ。

④ 児童生徒の社会的自立を支えるためのネットワーク作り

特別支援学校の児童生徒は、卒業後自立し、地域社会で活躍することを大きな目標としている。社会自立に向けての実習の場、地域資源を利用した子どもたちの学習の場などそれぞれの活躍の場や卒業後の生活を踏まえ、地域、学校、職場、福祉等と社会自立を支えるためのネットワーク作りを行った。



① 学部を越えた集団での活動



② 小学部と名木野小学校との交流活動



③ 高等部の職場実習



④ 平成 29 年度のネットワーク会議

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(他者との交流による関わることの楽しさの学び、社会性の伸長)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(昼休み、教科領域を合わせた指導の時間)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

書籍や Web サイト、パンフレットの使用は特にないが、児童生徒の実態や学習活動に合わせて、担当職員が支援具や支援方法を考えている。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

居住地校交流以外の活動は、それぞれの学部の年間指導計画に明記している。交流活動や実習などの前後には、児童生徒が見通しをもって活動や実習に最後まで参加できるよう支援している。また、児童生徒の実態に合わせて、イラストや写真、実物を用い、わかりやすい提示をするように配慮している。居住地校交流は、年間指導計画には位置付けていないが、毎回担当が交流校と事前打ち合わせを行い、お互いがよりよい関わりができるようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

前年度の反省を踏まえて、活動を行うようにしている。担当職員が交流校や実習先と十分な情報交換や共通理解を図るようにしている。また担当職員は、学級担任や児童生徒がスムーズに活動に参加できるようにその都度打合せを行っている。高等部の職場実習では、学部全体で実習の様子を情報交換し、活動内容や支援の仕方などを協議し共通理解を図っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

活動の質の向上のために、活動後には当該学部の職員を中心に評価を行っている。また、同一年度内に2回目の活動がある場合は、前回の評価を生かし、改善できる点は改善するようにしている。児童生徒の社会的自立に向けた成長が見られ、大きな成果となっている。課題としては、職員の多忙感の解消、行事が連続することへの児童生徒の負担感の軽減が挙げられた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

市民の中には、当校をよく知らない方もたくさんいるので、学校だよりやホームページ(ブログ)、オープンスクール等で当校の活動を適宜紹介している。また、児童生徒が地域に出て活動する機会を積極的に設けており、児童生徒が活動する姿を市民が直接目にする機会が増えてきている。これにより当校のことを知る方が少しずつであるが、増えてきている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

平成26年から、毎年「障がいのある子どもたちの地域生活を支えるネットワーク会議」を行っている。当校コミュニティスクール推進委員が企画運営し、地域の福祉事業所や企業、相談支援事業所、保護者、学校職員が子どもたちの地域生活や卒業後の生活について情報交換したり質疑応答したりすることで「顔の見える関係」作りを行ってきた。ネットワークの輪は、1回目から少しずつ広まってきている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

市内小中学校はユネスコスクールに加盟しており、前述のように各学部で様々な交流活動を行っている。また、当校と同時期にユネスコスクールに加盟した大牟田市立大牟田特別支援学校と交流を行っている。遠く離れているので、児童生徒や学校職員が直接行き来して交流することは行っていないが、図工や美術で制作した作品や手紙を年3回送り合って、交流している。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

平成 26 年から毎年行っている「障がいのある子どもたちの地域生活を支えるネットワーク会議」により、当校の児童生徒を支えるネットワークが少しずつ広がり、居住地校交流の延べ回数が年々増えてきている。また、高等部の職場実習の協力企業が年々増えてきており、卒業後の進路先の開拓の一助となっている。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

平成 30 年度は、今年度の活動を継続して行っていく。近隣各校とは日常的な交流や行事を通しての交流を引き続き行う。居住地校交流も引き続き行う。交流相手校と事前の打ち合わせを十分に行い、児童生徒がスムーズに活動できるようにしていく。また、中学部と高等部で行っている職場実習も引き続き行う。特に高等部は卒業後の進路につながる活動なので、実習先、保護者、学校が十分な共通理解を行った上で、行えるようにしていく。平成 30 年度で第 5 回となる「障がいのある子どもたちの地域生活を支えるネットワーク会議」は 10 月下旬に行う予定で計画を進めていく。引き続きたくさんの方に参加してもらい、ネットワークが広まるように努めていきたい。